



実用新案登録願(1)

(3000円)

昭和53年 1月13日

特許庁長官

熊谷 善二 殿

考案の名称

シツ シ ヨ シ ャ
湿紙容器

考案者

〒100 東京都千代田区神田富山町5番地1

ビシヨン株式会社内

大 貫 善 市

(ほか1名)

実用新案登録出願人

〒100 東京都千代田区神田富山町5番地1

ビシヨン株式会社

代表者 仲田 祐一

代理人 (郵便番号 100)

東京都千代田区丸の内三丁目2番3号

[電話東京(211)2321大代表]

4230

弁理士

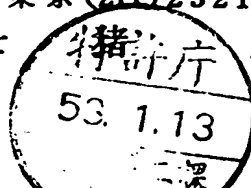
特許庁 股

清

53. 1. 13

(ほか2名)

方 式
審 査



明 細 書

考案の名称 湿紙容器

実用新案登録請求の範囲

湿紙を内装する容器本体の天板部に開設された湿紙引出口をとりまく環状周壁部の外端に薄膜状資材からなるシール材を密着して前記天板部とシール材とで気密の室を形成し、この室内に容器本体内の湿紙の端部を引出して内装し、前記湿紙引出口は密に嵌脱自在な蓋体により封止し得るようにした湿紙容器。

考案の詳細な説明

本考案は湿紙容器に関する。

従来から、稀釈薬液等の水分を湿浸した不織布等の紙を巻紙状あるいは折畳み状として容器内に収納し、使用時には容器の口部を開口して順次引出すようにした湿紙容器が知られている（例えば実公昭48-33587号公報参照）。

しかるに上記従来のは、湿紙の使用に際し外蓋を外し、容器口部内に手指を挿入して湿紙の端部を引出す際に容器内の湿紙が外気汚染され、これに雑菌が附着して容器内で繁殖して、本来衛生的に保管されるべき性質を持つにも拘らず不衛生なものとなるという大きな欠点があつた。

本考案はこれに鑑み、容器から湿紙を引出すに際し容器内の湿紙が外気に触れることなく取出すことができ、容器内の湿紙に雑菌が付着して繁殖するような不都合のない湿紙容器を提供することを目的としてなされたもので、その要旨とするところは、湿紙を内装する容器本体の天板部に開設された湿紙出口をとりまく環状周壁部の外端に薄膜状資材からなるシール材を密着して前記天板部とシール材とで気密の室を形成し、この室内に容器本体内の湿紙の端部を引出して内装し、前記湿紙引出口は密に嵌脱自在な蓋体により封止し得るようにしたものである。

以下、本考案を図面に示す実施例により説明する。

第 1 図は湿紙 1 を巻紙状として容器本体 2 内に収納するようにした場合の実施例を示すもので、容器本体 2 の上部には蓋枠 3 が圧嵌めあるいは接層により気密状態に取付けられ、この蓋枠 3 の天板部 4 には湿紙引出口 5 が開口されている。この湿紙 1 は予め所要の間隔をおいてミシン目等により切断し易くされ、また前記湿紙引出口 5 は、第 2 図 A に示すような直線状の切込みによるもの、あるいは第 2 図 B 示のような十字状の切込みによるものなどを形成した可及的薄い柔軟材で形成されることが望ましいが、他に適宜な構成を採用することができる。

前記天板部 4 には、前記湿紙引出口 5 をとりまくように環状突堤 6 が設けられ、この環状突堤 6 には前記蓋枠 3 に紐体 7 により連結された蓋体 8 が嵌脱自在に密嵌されるようになつている。

前記湿紙引出口 5 には、容器本体 2 に内装されている湿紙 1 の端部 1 a が予め引出されており、この状態において前記環状突堤 6 の上端に容器本体 2 内および前記環状突堤 6 内に形成される室 9

を密封するアルミニウム箔等のシール材10が密着されている。

図中11は容器本体2内に貯溜される液体を示す。

したがって上記実施例においては、容器本体2内の湿紙1を使用するに際しては、まず蓋体8を外し、ついでシール材10を破断すれば、湿紙引出口5から予め引出されている湿紙1の端部1aをつまんで引出すことにより所望の量だけ取出すことができる。

この場合、天板部4の湿紙引出口5とシール材10との間に形成されている室9内に予め湿紙1の端部1aが引出されて内装されているので、開封後最初につまんで引出す際に容器本体2内の湿紙1には全く手指が触れることなく引出すことになり、したがって容器本体2内の湿紙1に雑菌が付着して繁殖することがない。

第3図は本考案湿紙容器の変形例を示すもので、このものは容器本体2の下底部に底板12が密着あるいは接着により密封して取付けられ、上部の天板部4に開設された湿紙引出口5に蓋体8を嵌脱

自在に被冠し、容器本体 2 の周縁を前記天板部 4 より上方に突出して環状突堤 6 とし、その上端にシール材 10 を密着させたものである。

この実施例においても、湿紙 1 の使用に際しては、シール材 10 を破断し、蓋体 8 を開披すれば、湿紙引出口 5 から引出されている湿紙 1 の端部 1 a をつまんで引出すことにより、前記実施例の場合と同様に容器本体 2 内の湿紙 1 に手指を触れずに使用することができる。

第 4 図は本考案のさらに他の変形例を示すもので、このものは多数枚の湿紙 1 を公知のように連続して引出せるよう折り重ねて容器本体 2 内に収納し、その最上部の 1 枚を湿紙引出口 5 から引出しておくようにしたものである。他の構成は前記第 1 図示の実施例と同様であり、対応する部分には同一符号を付しておく。

以上説明したように、本考案は、上記いずれの実施例においても、容器の湿紙引出口外にシール材により密封される室を形成し、この室内に容器に内蔵される湿紙の端部を予め引出しておき、こ

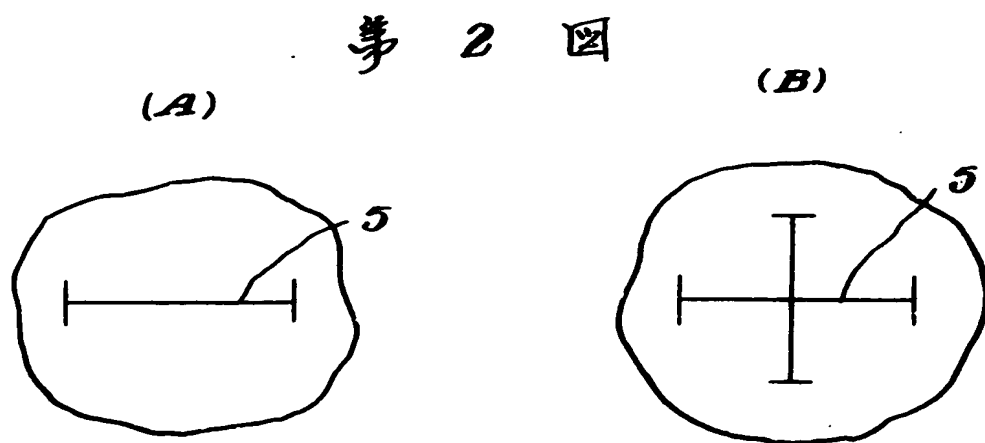
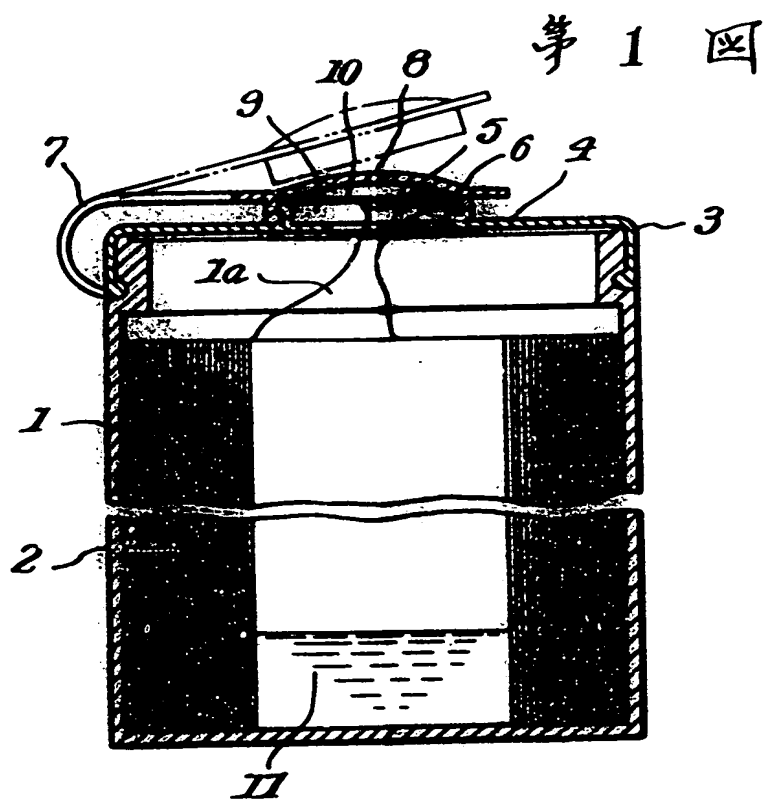
の状態て殺菌処理する構成であるから、湿紙の使用時にシール材を破断して湿紙を引出すとき容器の内部および容器内の湿紙には外気および手指が接触することがなく、したがって汚染による雑菌の付着がなく、開封後においても雑菌の繁殖が防止されて衛生的に使用することができる優れた効果がある。

図面の簡単な説明

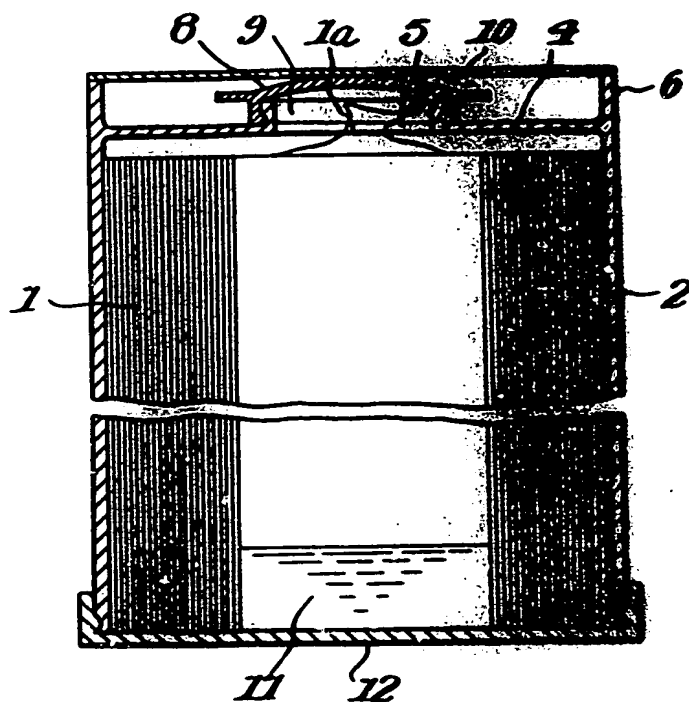
第1図は本考案に係る湿紙容器の一実施例を示す縦断側面図、第2図A、Bは第1図における湿紙容器の湿紙引出口の一例を示す平面図、第3図は同他の実施例を示す縦断側面図、第4図は同さらに他の実施例を示す縦断側面図である。

1…湿紙、1a…端部、2…容器本体、5…湿紙引出口、6…環状突堤、8…蓋体、9…室、10…シール材。

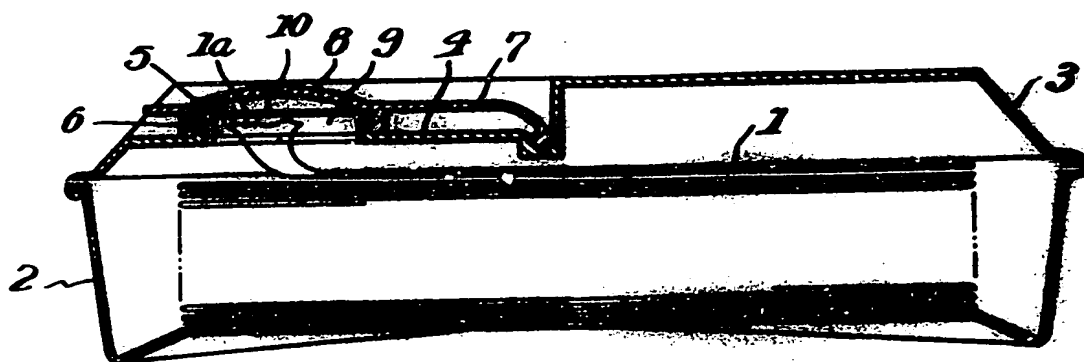
出願人代理人 猪 股 清



第 3 図



第 4 図





添 附 書 類 の 目 録

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 明 細 書 | 1 通 |
| (2) 図 面 | 1 通 |
| (3) 委 任 状 | 1 通 |

前記以外の考案者、実用新案登録出願人または代理人

考 案 者

テ ガ マ マ シ ヒ カ イ ガ ン ナ
神奈川 県 茅 ヶ 崎 市 東 海 岸 南

2 丁 目 5 番 49 号
ナ カ 田 祐 一
仲 田 祐 一

代 理 人 (郵便番号 100)
東京都千代田区丸の内三丁目2番3号

6428 弁 理 士 佐 藤 一 雄

同 所

6962 同 富 岡 英 一 郎

同 所

同

